核戦争防止 兵庫医師の声

第81号 2010年12月号

発行 核戦争を防止する 兵庫県医師の会

 \mp 650 - 0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F 兵庫県保険医協会内 電 話 078 (393) 1807 振替 01130-6-57830

第 21 回「反核医師・医学者のつどい」in 奈良

世論と運動さらに

いま「核兵器のない世界」は手の届くところに――。「シ ルクロード終着の都から世界の非核平和を」をテーマに、 第21回核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医 学者のつどい in 奈良が、9月 18・19 日に奈良女子大学 などで行われた。全国から医師・歯科医師や医学者、医 学生、一般市民など388人が参加し、「核の傘」「核抑 止」論からの脱却や核兵器禁止条約の実現に向けて真剣 な議論を交わしあった。兵庫県反核医師の会からは、口 分田勝代表をはじめ、つどいの副実行委員長を務めた武 村義人運営委員や大会アピールを提案した三宅麻由運営 委員など25人が参加した。

つどいは、兵庫県反核医師の会をはじめ、近畿各府県 の反核医師の会や保険医協会・民医連・IPPNW(核 戦争防止国際医師会議)大阪・京都両支部からなる実行 委員会 (実行委員長は峯克彰・奈良県保険医協会理事長) と反核医師の会が主催した。

18日の記念講演は、医師でIPPNWオーストラリ ア元代表のティルマン・アルフレッド・ラフ氏が、国際 的な核兵器廃絶キャンペーン「ICAN」(International Campaign to Abolish Nuclear Weapons) 運動を紹介し、 核兵器禁止条約締結への具体的な取り組みを提起した。

19日の市民公開シンポジウムでは、冨田宏治・関西 学院大学教授、川崎哲・NGOピースボート共同代表、 片岡勝子・JPPNW (核戦争防止国際医師会議日本支 部) 事務総長、広島大学名誉教授らがパネル報告。青山 哲也先生(つどい実行委員、奈良県保険医協会)と松井 和夫先生(同副実行委員長、和歌山県保険医協会)がコー ディネーターを務めた。

冨田氏は、今年のNPT再検討会議で核兵器禁止条約



会場が満員となった全体会

の締結に全力を傾けることが国際的課題として合意され たと強調。核兵器廃絶への世界的な流れに対し、核保有 大国の「核抑止力」論が重大な障害になっており、これ との決別が不可欠だと力説した。また、アメリカの「核 の傘」のもとで核抑止力論にしがみついている日本政府 を厳しく批判した。

川崎氏は、再検討会議を「困難と希望が混じり合って おり、0・5歩前進だ」と評価。核兵器禁止条約締結は 不可能だと主張する人々に対し、「地雷禁止条約も当初 は無理だと言われていたが、97年に実際に締結された。 私たちは自信を持って取り組んでいくべきだ」と述べた。 また、100人の被爆者が世界中を航海し被爆体験を語 るピースボードの「おりづるプロジェクト」も紹介。被 爆者の体験を世界ものにしていくことが大切だとした。

片岡氏は、「再検討会議での日本政府の対応は物足り なかった」と指摘した。核兵器廃絶に対し「ステップ・

1面からつづく

バイ・ステップ」を繰り返し主張し、大国の核保有を延長させ核廃絶を遅らせることに加担していると批判。「いつまでに廃絶するかの目標を持って、そのためにはいつまでに何をするかを考えないといけない」と強調した。その上で、包括的核実験禁止条約の締結こそが唯一、完全な核廃絶につながるとした。

コメンテーターを務めたラフ氏は、「日本はNGO間のパートナーシップは強いが、核兵器廃絶をメインに掲げていない団体、宗教団体、環境団体、人権団体、産業団体など、彼らと手を結んでいくことができればより強い力になるのではないか」と、核廃絶運動の取り組みについてアドバイスをした。

フロアから、IPPNW京都府支部副代表世話人の三 宅成恒先生が「NPT再検討会議へ、京都の取り組み 幅広い市民と共同して核兵器廃絶を地域から訴える」と の内容で報告した。

奈良ロイヤルホテルで行われた全体会では、各地の保 険医協会・反核医師の会による反核活動が紹介された。

山上紘志つどい副実行委員長・反核医師の会代表世話 人は基調報告で、NPT再検討会議、原水爆禁止世界大 会、IPPNW世界大会について述べ、世界的に核兵器 廃絶が現実的な政治課題となっているなか、いっそうの 活動の拡充を呼びかけた。

奈良民医連の吉川周作先生は、NPT再検討会議の参加経験を語り、「唯一の被爆国日本からの発信なくして核廃絶はない」と強調した。

石川反核医師の会の原和人先生は I P P N W 世界大会 参加報告を行い「核のない世界のためには核兵器禁止条 約しかない」と強調。2012年の広島大会に向け、さらに運動を進めようと呼びかけた。

大阪反核平和医療人の会・事務局長の武田勝文先生は、 2月に同会を発足させた経緯を紹介し、医療関係者で連携して活動していきたいと抱負を述べた。

広島県保険医協会理事で「上関原発止めよう 広島ネットワーク」共同代表の青木克明先生は、原子力発電所建設が計画されている上関の反対運動を紹介し、脱原発を訴えた。

沖縄反核医師の会の武居洋先生は、普天間基地移設問題は県民の反対の意志が明確だとして、「今後も即時基地撤去を求めていく」と全国へ支援を呼びかけた。

埼玉反核医師の会の雪田慎二先生は、05年に活動を 再開した同会の取り組みを紹介。「来年埼玉で開催され るつどいを元気の出る集会にしたい」と語った。





全体会の司会を務めた武村義人運営委員(上)。とアピールを読み 上げた三宅麻由運営委員

秋田大学の中村まなび氏は、全国反核医師の会学生部会の活動を紹介。「自分たちが学んできたことを、同じく医療者をめざす学生に向けて発信できた」と、この1年間の成果を述べた。

司会をつとめた武村義人・副実行委員長(兵庫県保険 医協会副理事長)は「非常に多彩な発表で胸がいっぱい になった」と全体会を締めくくった。

つどい最終日、三宅麻由先生(兵庫反核医師の会)が「『核兵器のない世界』は今、私たちの手の届くところにあります」「国内で、そして国際的にも、さまざまなNGOや運動にネットワークを広げ、核兵器禁止条約の締結に向け、2015年までには条約交渉が開始されるよう、さらなる運動と世論を盛り上げていきましょう」と集会アピールを読み上げ、中川武夫・全国反核医師の会代表世話人がまとめの発言で、2日間の奈良のつどいの成功を参加者らと確認した。

※詳細は同封しております全国「反核医師の会ニュース」 をご覧下さい。

ティルマン・ラフ氏講演会

医師は政治的にも人命を尊重して

兵庫県反核医師の会は9月22日、兵庫県保険医協会 会議室で、「反核医師・医学者のつどい」でも記念講演 の講師を務めたティルマン・ラフ氏を神戸に招き、講演 会を行った。参加者は医師・歯科医師ら14人が参加し

ラフ氏は I C A N (International Campaign to Abolish Nuclear Weapons) について、国際地雷禁止キャ ンペーンの成功例にインスピレーションを得て開始した と説明。「核兵器はあらゆる人々、あらゆるものごとに 影響するため、全ての人々に関係する問題」だとして、 国際機関や政府だけでなく、多様な団体とのパートナー シップが進み、核兵器廃絶のメッセージを多方面から発 信することができたと、キャンペーンの意義を強調した。 ラフ氏は、「今年のNPT再検討会議の最終文書に、

これまで非主流であっ た核兵器禁止条約が触 れられ、一躍主流に なった」「私たちが望 むのは、『いつか』で はなく私たちが生きて いる間に核兵器が廃絶 されること。核兵器廃 絶条約締結のための多 国間交渉を今すぐ始め



活発な質疑に丁寧に応えるラフ氏

ること」とし、自分たちの国の政治家たち に圧力をかけようと呼びかけた。

参加者からは、「原発についてはどう見ているか?」 などの質問が寄せられた。

第19回IPPNWバーゼル大会報告

被爆国日本の医師としての役割

今年の5月、NPT再検討会議が開かれ、「核兵器の ない世界」の実現が確認された。核保有国が核兵器を廃 絶するための「明確な約束」が確認され、中東地域非核 化の2012年会議招集など大きな前進がみられた。世 界の反核運動と核兵器廃絶の国際世論が核兵器全面禁止 のための交渉を推し進めた形となった。

第19回IPPNW世界大会は、こうした情勢をふま えて8月27日~31日スイスのバーゼルで世界各国か ら約800人の医師を集めて、開催された。日本は、唯 一の核被爆国である。我々日本の医師・医学者の発言は 大変重く、積極的に議論に参加して、核廃絶の具体化を 進めることが重要であると考えられる。残念なことに、 日本政府はNPT再検討会議で何らイニシアティブを発 揮することなく、アメリカの「核の傘」を容認するかの ごとき対応に終始していた。だからこそ、我々日本の医 師・医学者は、今回の I P P N W 世界大会で重要な役割 を果たさなければならない立場にあった。

今回の世界大会では、全体会議・分科会・ポスターセ ションなどに分かれて会議が進められた。分科会では、 日本の代表から原爆症認定問題が提案され裁判の経過報 告、争点、認定後の行政の対応の遅延などが報告されて いる。ポスターセションでは、被爆国日本の姿を素直に

運営委員 小島 修司



各国の代表と交流する反核医師の会からの参加メンバー。 左端が小島先生

伝える内容であり、被爆者を診療し続けた医師の記録は、 訪れた諸外国の医師の胸を打つものであった。

核兵器保有国は、特に米国は核兵器廃絶の具体的取り 組みに反対している。それは、まさに人類滅亡の危険な 綱渡りの選択であり、悪循環の繰り返しである。

次の第20回IPPNW世界大会は、日本の広島で行 われる。この重要な大会で、日本の医師・医学者は「核 兵器廃絶」のための明確な役割を果たさなければならな い。ひとりでも多くの医師の参加を期待する。

新春講演会

基地はいらない。どこにも

―普天間基地問題と私たち―

今夏、当協会の平和ツアーで訪沖した折、仲里先生たちと懇談する機会をいただきました。一献傾けながら、先生は親戚がひめゆり部隊の犠牲者であることなどにも触れられ、戦争の酷薄さと沖縄の現状について熱く語っていただきました。泡盛とともに五臓六腑にしみわたった話でした。

普天間基地移設をめぐり、民主党政権は名護市の辺野古に固執する姿勢です。その論拠とされる米軍基地の「抑止力」とは何なのか、また、沖縄に基地を押し付ける「日米安保」とは何なのか。ともに沖縄と日本の平和を考える上で根源的な問題です。

長年地元の医師として県民の健康を守るとともに、平和運動でも奮闘されておられる先生に、基地・平和・医療を 縦横に語っていただきます。私たちも、ともに沖縄の問題を考える絶好の機会だと思います。ぜひ、ご参加ください。

●日 時 : 2011年1月22日(土)16時30分~(16時開場)

●講 師 :沖縄県保険医協会会長 **仲里 尚実** 先生

プロフィール: なかざと なおさね 沖縄県生まれ、昭和49年東北大学医学部卒業。東北大学医学部第一外科を経て沖縄医療生活協同組合中部協同病院院長、老健かりゆしの里施設などを歴任。現在オリブ山病院副院長。1999年より沖縄県保険医協会副会長、2009年7月より 会長。保団連出版部副部長。



【兵庫県反核医師の会運営委員 加藤擁一記】

●参加費 :無料 どなたでもご参加いただけます

●会場:兵庫県保険医協会5階会議室



- ○兵庫県神戸市中央区海岸通 1-2-31 神戸フコク生命海 岸通ビル 5 階
- JR・阪神元町駅下車、東口を出て南へまっすぐ徒歩7分。ビルの1階は、 美容室 EARTH等)
- ○当ビルには駐車場はございませんので、近くの有料駐車場をご利用ください。

●主 催 : 九条の会兵庫県医師の会/核戦争を防止する兵庫県医師の会/兵庫県保険医協会/ 兵庫県民主医療機関連合会/九条の会・医療者の会(全国)

	参加申し込みFAX	078 - 393 - 18	0 2
氏名()参加人数()人
医療機関・団	体名()ご連絡先()

お申し込み、お問い合わせは兵庫県保険医協会(โロ 078 - 393 - 1807 / E-mail:hirata-t@doc-net.or.jp)平田まで